

安全と環境を考えるニシオの広報誌

2000

Vol-5

47

安全くん

「見つめ合う、目と目で

しっかり、後方確認!!」

の巻



インターネットホームページ

「安全くんネット」もご覧ください。

<http://www.anzenkun.nishio-rent.co.jp/>

〈この広報誌は、再生紙を使用しています。〉

それ行け!! 安全くん

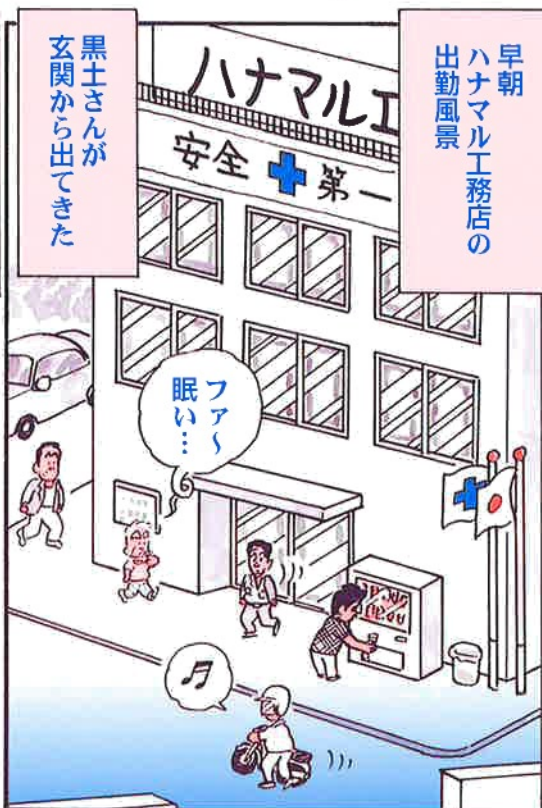
画 中村よしのぶ



「見つめ合う、目と目で
しっかり、後方確認!!」の巻



すると一斉に
黒土さんを見て
しっかり目線を
合わせる
安全くん達



早朝
ハナマルエ工務店の
出勤風景

黒土さんが
玄関から出てきた

フアッ
眠い...



おはよう!

おはよ
うさん

オッ
ス!!



お話しは
数力月前に
さかのぼる

実はね...

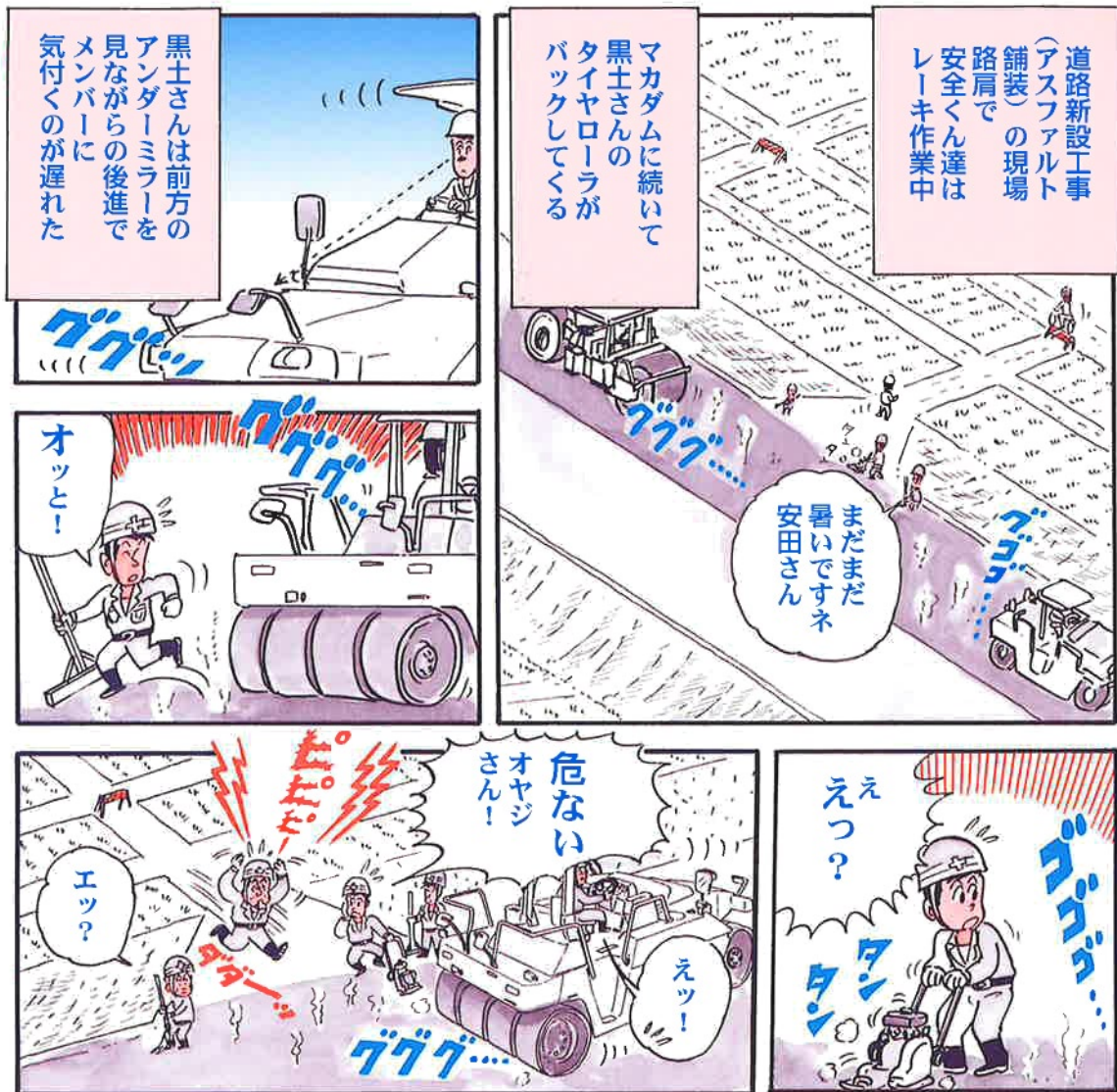
ここだけの
話ですが
この不思議な
習慣には
ちょっとした
エピソードが
あるんです



おはようございます!
(と、うなずく
黒土さん)

目と目を合わせる
一種異様な
雰囲気
朝が始まった

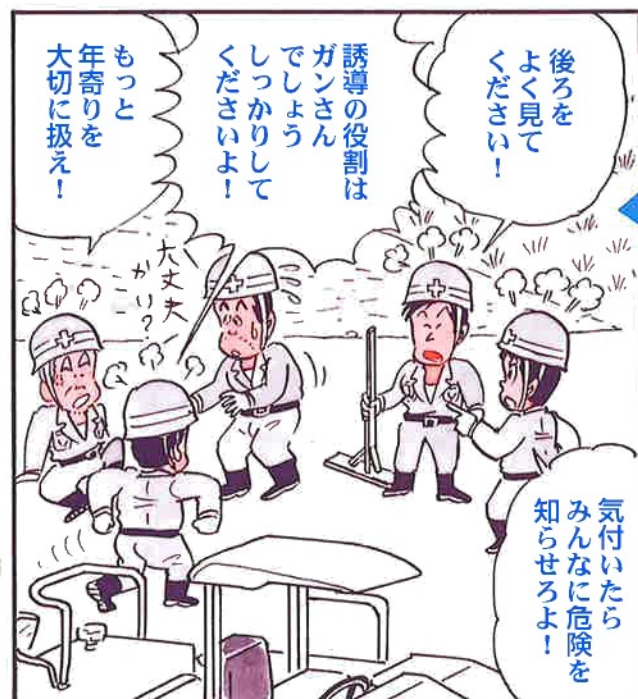
コッソリ



解説コーナー

重機作業は、施工と施工の合間、それに車幅内が危ない！
 ～車両の後方安全確認のために、センサーと監視カメラの活用を！～

- ◆建設業の3大災害の一つ「重機災害」は、周囲の作業員、特に車両の後方（車幅内）に位置した作業員が被災するケースが多く、さらに作業中よりも、次の作業ポジションへの移動時や方向転換をしている時など、ちょっとした合間での事故をよく見かけます。作業時は、機械も一定の速度で方向も安定しており、回りの注意も集まっているのですが、単に移動するだけの場合、オペレータも周囲の作業員も緊張感が一瞬途切れ、何気なく動作してしまっているような経験はありませんか？
- ◆本来、重機の作業範囲内への立入禁止の措置をしてから作業を行うべきですが、舗装工事のように周囲の作業員も同時に作業を進めていかなければならない時は、誘導者の配置が必要となります。しかし、注意しているサイドとは逆の位置から不意に作業員が近づいて来たり、作業員が誘導者の指示や車両の動き（意図）に全く気付いていない時は大変なことになります。また、散水車など後方の視界が悪く、バックミラーだけでは不十分な機種でも、バックする際、非常にコワイ思いをしながらも実際は見切り発車しているケースが大半ではないでしょうか？
- ◆結局、的確に判断し明確な指示・警告を出せる誘導者の育成が必要なのですが、作業員が交代で行うなど、ベテランを配置することもできず、意外に軽視されているのが実情です。品質管理面での監督だけでなく、安全面でもベテランの誘導者を育てていかねばなりません。



ガンさんのフシポイントレッスン

「重機・車両の安全作業は、誘導者の安全配置と能力向上から！」

- ◆今回の安全くんたちの事例では、オペレーターも周辺の作業員もお互いに「気を付けてくれるだろう」と勝手な思い込みの中で発生した「ヒヤリ・ハット」です。
- ◆ここで重要になってくるのは「誘導者」です。今回、誘導者であるガンさんがその役目を怠り、何の役にも立ちませんでした。このような状況では誘導者なしで作業をしてはいけません。



■労働安全衛生規則 第158条（要旨）

- 事業者は、車輛系建機（ローラも含む）を用いて作業を行うときは、労働者と接触するおそれのある箇所に、労働者を立ち入らせてはならない。ただし、誘導者を配置し、その車輛系建機を誘導させるときは、この限りではない。また、車輛系建機の運転者は、この誘導者が行う誘導に従わなければならない。
- ◆また、重機災害は、この他にも転倒・転落や他の車両・重機との衝突など、様々な事故事例があります。オペレーターは、周囲の安全を確認して作業することは当然ですが、人や機材・車両が混在し、同時に作業を進めている中で、品質面でも重要な役目を持っているだけに、なかなか行き届かないのが実情です。
 - ◆そこで、誘導員を配置し、常に重機と作業員、および周囲の状況を見て危険を回避するよう監視させる必要があります。重機の特長や作業の要領、合図の出し方など、誘導者の教育と能力向上が大切です。



刃物は切れ味が命！ ～道路カッター、コアドリルの使用上の注意～

コンクリートやアスファルト路面の切断やコア抜きに使用するカッター類は、その刃が切れなければ意味がありません。特に刃は高価なダイヤモンドブレードを使用するので、切断時は常に注水を続けなければ、刃が焼き付き切れなくなります。今回は使用上の注意点をまとめてみましょう。

■使用前の点検ポイント

①湿式ブレード使用の場合

水噴水ホースは刃の両側から出ているので点検時注意のこと。刃の水噴水ホースが詰まると、湿式ブレードの場合、焼けてダメになります。給水タンクに泥や混合物があるとホースが詰まるので注意！水道など、きれいな水を使用のこと。

②電動モータ式を使用の場合（コアカッター）

モータがすぐに停止する場合、負荷のかかりすぎが原因です。送り速度や刃が削りすぎていないか点検をしましょう。電源は適正な電圧で、タコ足などは避けて下さい。☆切断時は濁水が発生するので、バキュームもしくは湿式掃除機で吸水して処理をしましょう。





解説コーナー

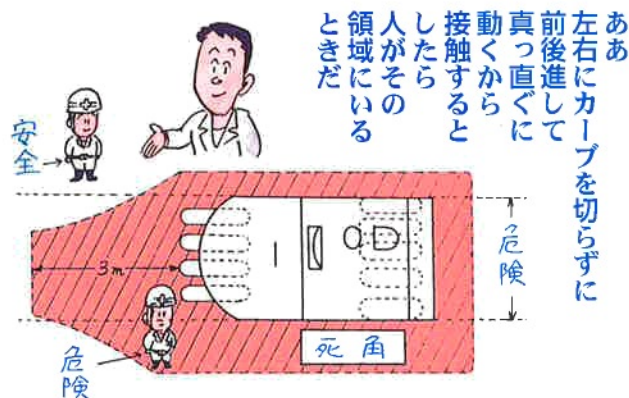
ローラに係わる危険の防止

(労働安全衛生規則より抜粋 第152～165条)

- 1) 調査 : ローラの転落、地山の崩壊などを防止するため、予め作業場所の地形、地質を調査し記録しておく。
- 2) 作業計画 : 調査結果をもとに作業計画を定めること。次の事項の関係者へ周知徹底。
①ローラの種類および能力、②運転経路、③作業方法
- 3) 制限速度の設定 : 最高速度10kmを越えるローラは、地形・地質などにより制限速度を定めること。
- 4) 転落等の防止 : ①運転経路については、地盤の不同沈下を防止するため必要な幅員を保つこと。
②傾斜地、路肩などでは誘導者を配置し、運転者もこの誘導に従うこと。
③転落の恐れがある箇所には、標識や柵を設けること。
- 5) 接触の防止 : 誘導者を配置している場合を除き、ローラと接触する恐れがある箇所には作業員の立入を禁止すること。
- 6) 合図 : 誘導者を置く場合は、一定の合図を定め実行すること。運転者はこの合図に従うこと。
- 7) 運転者がローラから離れる時 : エンジン进行を停止し、ブレーキをかけるなど逸走するのを防止すること。

その他、移送時の危険防止、同乗の禁止、使用の制限など安全衛生規則に定められた事項を守り、安全に作業を進めて下さい。





小物は点検の手間いらず? ~エア工具の安全な使用ポイント~

エア工具は日々のメンテナンスが大切。粉塵の舞う現場では、使わないときはカバー等で機器に塵がかからないように注意しましょう。また、ブレーカーや削岩機等の振動エア工具は防振対策もお忘れなく。



日常点検のポイント

エアツールの大敵は、塵埃や水分による錆びつき。場合によっては作動不能をきたします。コンプレッサーの水抜きを忘れずにしましょう。また保管時は、塵埃がかからないようにして下さい。

給油について

エア工具は高速で往復運動をしているので、給油の不足は発熱、摩耗を早め作動不良、性能低下等を招きます。常に軽快に使用するため、適切な給油をして下さい。

ブレーカ・ロートハンマー：バルブ、ピストンの摺動部エアインレットより手差しで
給油、約3cc/日×2回

削 岩 機：L0150ラインオイルへ給油



